

キャラクター名
日向 風鈴 (ひゅうが かざね)

プレイヤー名

シンドローム	オルクス オルクス		ワークス	UGNチルドレンA	カバー	高校生
	オプション		年齢	16	性別	女
覚醒	忘却	衝動	殺戮	初期侵食率	39 %	
出自	結社の一員	経験	技術班	邂逅	玉野 椿	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	1	0			1	行動値	6
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	6
精神	2	0	0			2	戦闘移動	11
社会	4	0	0			4	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲:	0	合計回避:	0
-------	---	-------	---

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
[24] 超血統/フルブラッドP		N		
玉野 椿	P 尊敬	N 嫉妬		
高崎 隼人	P 憧憬	N 劣等感		
		N		
		N		
		N		
		N		

最大財産P:	8	残り財産P:	
--------	---	--------	--

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
縮地	7	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果: 移動箇所を任意に決定、離脱可能、Lv回/1S。								
バックスタブ	9	-	常時	至近	自身	自動	リミット	
効果: 《縮地》使用時攻撃力+Lv×5								
間隙の魔術師	5	5	オート	視界	単体	自動	-	
効果: 移動箇所を任意に決定、離脱可能、攻撃力+Lv×5、Lv回/1S。								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

落ちこぼれの落第生からエースサイドキックの座へと駆け上がったUGNチルドレン。一撃目で注意を引く凶攻撃を行い、二撃目でパートナーの攻撃に合わせ刃を敵に滑り込ませるという特殊な戦闘スタイルを身に着けている。攻撃を命中させあうことが前提のオーヴァードの戦闘において彼女のバトルスタイルはその奇抜さから虚を突くことに長けているが、この専用方法はパートナーが居なければもともと攻撃を当てることすらできない不安定さを兼ね備えている。大の苦手としていた正攻法の白兵戦に長年拘っていた彼女の負の経歴も相まって、劣等生としての評価を拭えずに本来ならば彼女が希望した実践投入は見送られ続けるはずであった。そんな彼女を救ったのは現在のパートナーである。お互いに足りない部分を補いあえる彼/彼女は理想のパートナーのそのものである。阿吽の呼吸で敵をバタバタと薙ぎ倒していく二人は瞬く間にその名を挙げ、いつしか二人は「ファルコンブレード」と「シルクスパイダー」の後釜とさえ評されるようになった。辛く不安だった過去も身に余るような評価も現在の彼女にはそんな価値がない。ただ、最愛のパートナーの隣に立てる。そんな「いま」が続くことこそが彼女の願いである。

明朗快活を装い、後輩口調で誰にでも受け入れられるフランクさを兼ね備えているため、男女問わず人気が高く、交友の幅も広い。しかしそれは、異常なまでに空気や間を読み、八方美人であることを心がける彼女の自助努力あってこそのものである。後述の過去から、他人から見限られたり嫌われることを極度に恐れており、たとえフィクションであっても人と人の不和からは目を背けてしまいがちである。そのため誰にも嫌われないような仮面を公の場ではつけており、その反動から嫌われる心配がない程親密な間柄の相手には弱音を吐いたり、子供の様に甘えたりすることがある。

生まれついてオーヴァードに覚醒しており、その半生の多くをUGNの訓練機関・保護施設にて過ごす。オルクスのピュアブリードとしての才覚に恵まれ、《縮地》や《バックスタブ》を始めとする白兵屋としての資質が期待されるエフェクトを高いレベルで使いこなしていたため、幼少期は戦闘員としての訓練に打ち込んだ。しかしながら彼女は、「距離を詰め必殺の一撃を繰り出す」ことは得意であっても、「攻撃を当てる」ことが絶望的に苦手であった。《コンセントレート》を始めとする基礎エフェクトを習得することは現在まで能わず、加えて白兵としての攻撃手段に乏しいオルクスのシンドロームのみにしか覚醒しなかったため、自他ともに認める劣等生に成り下がった。そして、オーヴァードとしての生き方しか知らなかった彼女は、同輩から、UGNから、ひいてはこの世界から見限られないためにいつしか空気を読んで争いごとを避けようとする癖がついた。オーヴァードとしての素体だけであっても活躍が見込めるUGNの裏方に自分の居場所を見出そうとした。しかし、そんな彼女にも転機が訪れる。それはアカデミアにおける教官としての姿しか知らなかった玉野椿が、彼女のパートナーである高崎隼人とともに任務に臨む姿を垣間見た時であった。前線に立つっぱしの戦闘員としての活躍をしながらも、ファルコンブレードの動きに合わせ敵の背後から一